## 保育計画成果報告書

| | |
|---|---|
| 法人名等 | 特定非営利活動法人くにたち農園の会 |
| 施設名 | 認定こども園国立富士見台団地風の子 |
| 報告者（役職） | 佐藤 有里（副理事長） |
| 住所・連絡先 | 東京都国立市谷保 5119 |
| | ☎　042－507-8667<br>E-mail　kodomoenkazenoko@gmail.com |

○タイトル（保育計画）

| |
|---|
| ～園舎まるごと楽器で、日常に音楽を！！～ |

○主な助成備品

| |
|---|
| 電子ピアノ、ピアニカ、ザイロホン等オルフ楽器、<br>特製巨大木琴、特製打楽器 |

### １．保育計画策定の目的

認定こども園国立富士見台団地風の子では、子ども主体の学びを、保育目標である“思いっきり元気な子”を、大きな空の下で音楽を通して、“今、生きる喜びを感じる”体験・経験へとつなげ、育ちつつある力をよりいっそう伸ばしていきます。

当法人では、「農のある都市」「農が身近にある暮らし」を実現させることを目的とし、子育てしたい町づくりに貢献、だれもが意欲をもって育ちあう保育教育環境、地域子育てコミュニティをつくることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指しています。

地域資源を子どもの学びにつなげるとともに、地域の認定子ども園が、まちづくり、よりよい社会づくりの拠点とする中で、音楽を通して、地域の子ども達の生き生きとした取り組みへつなげたいと考え、保育計画を策定しました。

### ２．具体的な実施内容

**❶　オルフ楽器を使用した幼児音楽教育**

幼児音楽教育家カール・オルフの提唱する「文化・生活に基づいた音楽、仲間と創り上げる音楽活動」を、保育内容に取り入れました。

**「オルフ楽器」について**

例えば「ザイロホン」は、木琴でありながら、その音板が一つずつ取り外しでき、指導

者が予め音板を目的に合わせて選んでおくと、3 歳年少であっても、自由に叩くだけで、「音程のある楽器」を演奏している満足感を得ることができます。

**◎期待する効果**

幼児の指導に有効な**「わらべうた」**に、**「ザイロホン」等**を使用する

わらべうたの多くは、3 音で構成されるが、その 3 音のみをセットしておくと、自然とそのわらべうたを演奏する経験につながります。

わらべうたは、音楽指導の時間のみならず、その他の遊びの時間や生活の中で自然と口にするものです。その日常のうたが、より尊い存在になることも期待されます。

**「スリットドラム」**も木製打楽器であるため、木製の楽器同士でアンサンブルすることの「響きの調和」を存分に感じることが期待できます。

「耳を澄まして音を聴く」ことは、「人の話をよく聴く」ことにもつながります。

そのためにも、魅力ある音が出る楽器であることが求められますが、この楽器セットはそれを十分叶えてくれるものです。

また、これらは、**即興演奏**にも有効です。

年少クラスでは、好きな単語のリズム遊びとして。

年中～年長クラスでは、テーマに合わせた言葉を考え、それにメロディーを付け、子ども主体のオリジナル曲を作ることも可能になります。

**❷　園舎をまるごと楽器にする**

**①　スロープ手すりに打楽器**

塩ビ管パイプを利用して楽器を制作しました。

スロープの傾斜を利用し、音程の高低や音楽の流れを感じることができます。

**②　外壁に巨大な木琴**

木材の温かみや、音の振動を肌で感じることにつながります。

また、木製オルフ楽器とのコラボレーションも考えられます。

**❸　ワークショップ＆園舎まるごと楽器　完成お披露目演奏会**

特製の楽器制作を依頼した廃品打楽器協会会長山口トモさんを講師に招き、身近にある廃品を楽器に変身させるワークショップを行います。

園舎まるごと楽器が見えるテラスを舞台に、ワークショップで制作した楽器や、購入した楽器を使った青空コンサートを開催します。

皆でおもいっきり音楽を楽しみ、「今、生きる喜び」の体験へとつなげる時間になります。

## ３．その成果と評価

**◆ザイロホンについて**

年少児にとっては憧れの楽器＝「木琴」を演奏している満足感が得られました。

年中、年長児にとっては、音板が少なくてわかりやすいこと、どの板を鳴らしてもきれいに聞こえることから、演奏に自信が持てました。

**◆ミュージックパッドについて**

ジャンプをしたり、手で押したりすると鳴る仕組みの楽器であることから、身体運動に合わせて活用することができました。

子どもたちの大好きな動きが、ハーモニーの付いた音楽になる喜びを感じることができました。

◆ドラム類について

叩くだけではなく、穴を塞ぐ蓋を開閉することで音程が変化する仕組みの楽器であることから、子どもたちが自然と楽器を研究する姿が見られました。さらにその楽器の音の変化を楽しみ、自由な発想で音楽に合わせた音を出そうとする発展につながりました。

◆園舎まるごと楽器について

制作していただいた塩ビ管を利用した特製パイプ打楽器には、ピアノのような音程の順列はなく、どのように叩いてもメロディーのように音が鳴る仕組みになっています。

「自由な発想で音楽に合わせる」体験をしている子どもたちは、周りから聞こえる音に自然と協和して、純粋に音を楽しんでいる様子が見られました。

巨大な木琴が園舎の壁に出現！

叩いてみよう！

特製パイプ打楽器！

**◆山口トモさん演奏会について**

「自由に音を楽しむ」ことを極めているプロ演奏家のパフォーマンスを間近で体感したことによって、イメージがさらにふくらみ、 それを「真似してみよう」と思う好循環が生まれました。

まさか！一斗缶が楽器に変身

ええ？！の連発。ガラクタ演奏会

**４．今後の課題と展望**

「どの音を鳴らしても、気持ちよい音につながる」仕組みのオルフ楽器を使うと、どんなに元気よくゴチャゴチャに鳴らしても不協和音になることがなく、どのような気持ちでも楽器が受け止めてくれることは、 日常の様々な感情を、音で表現することの楽しさにつながっています。

これが、常に身近にあることが理想的であったが、屋外の天候によって出し入れすることの難しさをどのように解決するかが今後の課題と考えています。

以上